

『NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会』は、7月11日より『一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク』として活動してまいります。今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



臨床糖尿病支援ネットワーク

MANO a MANO



“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

年頭のご挨拶-新たな展望とともに-

[当法人代表理事]

イムス三芳総合病院

貴田岡 正史 [医師]

明けましておめでとうございます。御陰様で当法人は一般社団法人臨床糖尿病支援ネットワークとして無事に初めての新年を迎えることができました。また、本年は公益社団法人化を目指した各種事業の再構築とともにその事務的手続きが本格化いたします。会員皆様のご協力を得つつ、役員・事務局一丸となってその実現に全力を尽くしたいと考えております。

「日本社会そのものと糖尿病患者の高齢化による糖尿病医療環境の激変」は現実のものとなりつつあります。これに備えて、これまでの成功体験のみに頼ること無くその対応策を臨床現場の視点で再構築していく必要があります。一方、日本国の財政状態はこれまで以上に厳しさを増し、否応なく年金、福祉、医療等の支出と財源の均衡を早期に実現していく必要性が共通認識となっています。2018(平成30)年度には、介護報酬・診療報酬の同時改定のみならず、第7次医療計画・第7期介護保険事業(支援)計画・第3期医療費適正化計画がスタートします。つまり、今後の医療・介護施策において極めて大きな節目となります。

(<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001rbxs-att/2r9852000001rcla.pdf>)

医療介護のシームレスな連携は文字通り「言うは易く行うは難し」といえます。また、医療資源の偏在も大きな問題です。我々がこれまで行ってきたボトムアップの活動形式は多くの成果をもたらし、全国的にも高い評価を得ることができました。しかし、将来に対する新たな展望を持つためには、これまでの活動実績を踏まえながらも、時代をある程度先取る形で事業展開を再構築する事が重要です。その意味で地域性を基盤にした事業もこれまでと同様に大切にしつつ、広く公益性を求めて社会のニーズに合わせた、新たな活動を展開することを考えていきたいと思えます。

私たちは過去に「患者状態適応型パスシステム(PCAPS)糖尿病編」、「特定保健指導の動機付け支援および積極的支援のコンテンツ開発とその検証」等にかかなりの人的リソースを割いて試行錯誤を繰り返してきました。確かにその過程で貴重な情報の共有が実現でき、人材開発にもつながりましたが、残念ながら当法人の事業の巾を広げるには至りませんでした。その反省にたち今後は時代の要請に応えるためには、スピード感を持ちつつ全体の枠組みを見据えたいと、正しい方向性を堅持することがこれまで以上に求められています。

これから当法人は世代交代を図りつつ時代のニーズに的確に応える活動を展開するという難しい舵取りを実現していかなければなりません。公益社団法人化はそのために必要なひとつのプロセスともいえます。目標の実現のためには「毎日の地道な努力の積み重ね」が極めて重要で、企画委員会を中心に、ひろく会員の皆様のご意見とご協力を求める次第です。

読んで
単位を
獲得しよう

西東京臨床糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。
(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。)

問題 糖尿病神経障害について 正しいのはどれか、2つ選べ。

(答えは3ページにあります。)

1. ソルビトール蓄積などの代謝異常や細小血管障害が原因と考えられている。
2. 最も高頻度に見られるのは末梢神経の単一性神経障害である。
3. 喫煙や飲酒は糖尿病神経障害の発症・進展に関与する。
4. 自律神経障害の診断には運動負荷心電図を用いる。
5. アキレス腱反射の検査にはC128音叉を用いる。



報告

第20回 西東京糖尿病心理と医療研究会

日時:平成28年10月1日(土)

場所:国立市商業協同組合さくらホール

[当法人理事] 研究会代表 朝比奈クリニック 朝比奈 崇介 [医師]

去る平成28年10月1日国立市商業協同組合さくらホールで天理よろず相談所病院の北谷真子先生と京都大学教育学部教育学研究科の皆藤章先生をお招きして大橋健先生と私で司会をし、第20回西東京糖尿病心理と医療研究会が開催された。今回も糖尿病医療学会などで北谷先生が既に何度か行われている糖尿病医療学的症例検討会を行った。これは前回行ったように演者に医療者と患者の関わりを詳しく発表してもらい、聴衆がそれに対する感想や意見などを数人一組になってディスカッションを行い、それを発表するというワークショップ形式の検討会である。今回は「わたし、自分のこと好きじゃないんです～Fさんとの3年半はこころの沈黙とのがまんくらべ～」というタイトルで、公立昭和病院の看護師の松本麻里先生に症例を提示して頂いた。Fさんとの関係が徐々に進んで行く様を観客のみなさんも共有できたと思う。第2部で今年はこちらと時間をとって「糖尿病医療学の必要性」のタイトルで皆藤章先生よりお話をいただいた。いつも大事なポイントについてご解説いただける幸せを身に浴びて聞くことができた。また来年の秋にも北谷先生、皆藤両先生をお招きして糖尿病医療学的検討会を中心に据えた第21回心理の会が開催されることになった。またその時にも今回のような大勢の参加者と共に白熱した議論を行いたいものである。



大事なポイントについてご解説いただける幸せを身に浴びて聞くことができた。また来年の秋にも北谷先生、皆藤両先生をお招きして糖尿病医療学的検討会を中心に据えた第21回心理の会が開催されることになった。またその時にも今回のような大勢の参加者と共に白熱した議論を行いたいものである。

報告

第2回 糖尿病フットケアセミナーIN多摩

日時:平成28年10月15日(土)

場所:武蔵野公会堂

これまでフットケアの講演会は様々ありましたが、講演だけではなかなか実践に結び付かない点がありました。試行錯誤の中で実技を取り入れた会を貴田岡先生はじめ世話人の先生方、また、ファシリテーターをして頂いた糖尿病看護認定看護師の方々と検討し本会を実現することが出来ました。

多くの医師や看護師の方に参加していただく為、第1回と第2回は同じ内容にて実施いたしました。まず特別講演として杏林大学付属病院 形成外科 教授 大浦 紀彦先生に『糖尿病性足病変の重症化を予防するフットケア』を実施して頂き、次いで多摩北部医療センター 糖尿病看護認定看護師 町田 景子先生より『糖尿病予防的フットケアの診療加算について』、続いて『フットケア 初めの一歩～フットケア7つ道具を使ってみよう～』の演題にて高村内科クリニックの杉田 和枝先生に道具の使い方を、動画も交えて講演して頂きました。



実演・実技では5, 6人の小グループを6グループ作り、各グループにファシリテーターの方々が1人入り、2時間にわたり爪の切り方、胼胝の削り方、グラインダーの使い方についてフッティーを使いながら実技を行いました。

第1回・第2回ともに大変満足度の高い講演会となりました。今後もより良い会を開催していきたいと考えております。



第31回日本糖尿病合併症学会
第22回日本糖尿病眼学会
平成28年10月7日(金)・8日(土)

[当法人会員]

東京医科大学八王子医療センター
大野 敦 [医師]

第31回日本糖尿病合併症学会(及川眞一会長)と第22回日本糖尿病眼学会(北野滋彦会長)は、平成28年10月7日・8日の日程で、仙台国際センターで開催されました。

全く同じ日程で都内で開催された日本肥満学会と日本腎臓学会東部学術大会にも、毎年参加しているのですが、東京-仙台間の時間のロスを考慮し、今回は仙台の2学会に専念しました。個人的に参加させて頂いたプログラムを中心に、報告させていただきます。

初日は、9~11時に開催された両学会の合同シンポジウム②:合併症予防を考えた糖尿病療養指導~糖尿病患者のセルフケアと医療連携を支援する取り組み~にシンポジストとして参加し、「糖尿病患者の内科・眼科連携の進め方-糖尿病眼手帳・連携手帳の位置付け-」の話をさせて頂きました。

実は、7月30日に国分寺Lホールで開催された西東京CDEの会 第15回例会では、今回のシンポジウムの依頼を受けてから基調講演をさせて頂きましたので、例会での講演をもとに、1. 内科・眼科連携時の情報交換ツール作成の経緯:糖尿病治療多摩懇話会作成の内科・眼科連携専用の「糖尿病診療情報提供書」と糖尿病連携手帳・眼手帳の併用で、外来での時間的負担は軽減した上でより細やかな連携は可能、2. 糖尿病友の会や糖尿病教室での眼手帳利用による患者教育:眼手帳P20-25の「糖尿病網膜症の解説」を用いると、眼の自覚症状がないまま進行する網膜症の経過を視覚的に説明でき、療養指導への活用に期待、3. 多摩地域の眼科医における眼手帳に対する意識調査 -発行半年~13年目の推移-:糖尿病連携手帳との併用により、両科の連携のさらなる推進が期待できる結果、4. 糖尿病連携手帳第3版の持参患者に対する眼手帳の利用方針:第3版では14,15頁に「眼科・歯科」の頁が新設され、眼手帳の時系列での記載方式が連携手帳にも採用されたので網膜症が出現してから眼手帳を渡したいとの回答よりも、眼科の記入項目が少ないのですべての糖尿病患者に眼手帳を渡したいとの回答がほぼ2倍で最も多く、眼手帳20頁からの情報提供による教育効果への期待を含めて、両手帳の併用を積極的に勧めていきたいという内容で講演しました。

午前中に合併症学会のワークショップ⑬:網膜症でも講演予定でしたが、シンポジウムと一緒に時間のため、急遽当科の梶 邦成助教に演者を交代するハプニングもありました。またお昼前には、眼学会の一般演題で、八王子市内の眼科診療所における眼科・内科連携と眼手帳に関する意識調査結果の推移を報告しました。とても慌ただしいスケジュールでしたが、内科と眼科の連携の重要性をしっかりとディスカッションできたと思います。

夜の情報交換会は、牛タンのお店や及川会長ご推薦の日本酒も数多くあり、とても豪華で地元のおいしいメニューもたくさん味わいました。

2日目の午前中はディベートセッションが人気で、合併症を有する高血糖患者に対するHbA1cの低下スピードのディベートは、知識の整理ができてとても勉強になりました。

午後は、眼学会のポスターの座長を務めました。西東京地区からは杏林大学アイセンターから「糖尿病入院患者における眼科医と看護師の糖尿病共同指導の有用性」の発表があり、チームでのきめ細やかな取り組みに感動しました。

学会会場には仙台駅から地下鉄が通り、以前よりもずいぶん便利になりました。3年後の糖尿病学会の際は、アクセスを考えると駅前のホテルがお勧めです。

読んで
単位を
獲得しよう

答え 1, 3 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説 糖尿病神経障害は三大合併症の中では最も早期に起こり、一般的に下肢遠部位(足先、足底)から左右対称に上行性に侵され、しびれ感・異常知覚・痛みなどを訴え、進行すると知覚神経が麻痺し触覚や温痛覚が失われる。自律神経も多発性に障害され多彩な症状を呈する。ソルビトール蓄積などの代謝異常や細小血管障害が原因と考えられ、発症・進展に関与するリスクファクターは①血糖コントロール不良②糖尿病罹病期間③高血圧④脂質異常⑤喫煙⑥飲酒などがある。

2. ×:最も高頻度に見られるのは末梢神経の多発神経障害。

4. ×:自律神経障害の診断には、心拍変動検査(CVR-R)、131I-MIBGシンチ、起立負荷試験などを用いる。

5. ×:アキレス腱反射の検査には打腱器を用い、振動覚検査にC128音叉を用いる。圧覚検査にはモノフィラメントを用いる。

事務局からのお知らせ



事務局へのお問い合わせは当法人ホームページで常時受付けております。ご返信にはお時間をいただく場合がございますが、順次対応させていただきます。お急ぎの方は平日の10:00~12:00 / 13:00~16:00にお電話くださいようお願いいたします。

《1月より、2017年度年会費納入が始まりました》

●2017年度の年会費納入が、1月1日より可能になりました。会員継続される方は、ご自身の**会員マイページ**にアクセスいただき、1月1日よりご納入をお願いします。

*** 2017年度年会費 ***

納入期間

2017年1月1日~12月31日

金額

3,000円

納入方法

会員マイページの「年会費納入のお願い」より
(※1月1日以前には表示されていません。)



研究会等のセミナー・イベント情報

 直接事業 間接事業 その他

◆ 西東京CSII普及啓発プロジェクト 第10回研修会

申込必要

演題：『日本メドトロニック インスリンポンプ『722』の使い方』

開催日：平成29年1月17日(火) 19:20~21:00

場所：国分寺労政会館(JR中央線「国分寺駅」南口下車 徒歩5分)

申込：当法人ホームページのイベント情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。(1/10締切)

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

詳細資料の
同封あり

◆ 西東京CDEの会 第15回 症例検討会

申込必要

テーマ：『在宅療養中の高齢糖尿病患者のケア』

～医療と介護のシームレスな連携を検討しようPart 3～

開催日：平成29年1月26日(木) 19:00~21:00

場所：国分寺労政会館(JR中央線「国分寺駅」南口下車 徒歩5分)

参加費：当法人会員 700円 / 一般 1,000円

申込：当法人ホームページのイベント情報にある「申込みフォーム」よりお申込みください。(1/19締切)

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：0.5単位申請中

詳細資料の
同封あり

◆ 第7回 薬剤師糖尿病指導研究会

申込必要

開催日：平成29年2月4日(土) 14:50~17:30

場所：国立市商業協同組合 さくらホール(JR中央線「国立駅」南口下車 徒歩3分)

申込：FAX:042-362-1602(1/27締切) 参加費：500円

問合せ：ノボ ノルディスク ファーマ(株) (担当：半田) TEL:042-362-1601

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位申請中

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：0.5単位申請中

☆研修認定薬剤師更新単位：1単位申請中

詳細資料の
同封あり

◆ 第40回 糖尿病連絡会

申込必要

開催日：平成29年2月15日(水) 19:30~21:00

場所：田無タワー(スカイツタワー西東京)大会議室(西武新宿線「花小金井駅」北口下車 徒歩20分)

申込：TEL:0422-39-7971(2/1締切) 参加費：500円

問合せ：アステラス製薬(株) (担当：矢作) TEL:0422-39-7971

☆日本医師会生涯教育制度：1.5単位申請中

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
〒185-0012
国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
http://www.nishitokyo-dm.net/
Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

編集後記



糖尿病内科の担当を離れて1年。そろそろ糖尿病の指導が懐かしく…は、なりません。新しく担当している病棟にも、常時、約1割の糖尿病の方がいます。以前は、どの職種も同じチェックリスト(実際には存在しません)に基づいた動きでしたが、この病棟の主たるチェックリストは別に存在するため、「糖尿病のチェックリストは私がやりますのでご心配なく!」という気持ちの毎日です。
(広報委員 小林 庸子)